

2019 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	びわこ☆1・2・3キャンプ実行委員会
活動テーマ	びわこ☆1・2・3キャンプ in 2019 夏 福島第一原発事故の影響下に暮らす子どもたちを対象に、豊かな自然の中での共同生活を通して、思う存分自然と触れ合うとともに、自主自立と思いやりの心を育むための場と機会を提供し、自己肯定感を高められるように応援する。



琵琶湖で湖水浴 冷たくって、気持ちいい～！



食事作りのお手伝い 餃子 600 個作るのは大変！



子ども夏祭りは、子どもたち全員が主役！



今日は何が捕まえられるかな？

子ども時代に自然と触れ合うことは、五感の発達や身の回りの動植物の命を大切にすることを育む上でも非常に重要であるが、福島第一原発事故の影響により、東日本の広い地域ではその機会が奪われてしまった。更に、放射線は成長期の子どもの健康には大人よりも影響が大きいと、長期の保養キャンプにより原発事故被災地から遠ざけると同時に、自然体験が思う存分できる場と機会を提供しようと考えた。2012 年の春から学校の長期休暇に合わせて春は 10 日間、夏は約 1 か月間の施設滞在型のキャンプを開催しており、今夏も計 62 名(平均 40 名/日)の子どもたちが、スタッフとボランティアと共同生活を送った。キャンプ期間中、子どもたちは野草摘み、生き物探し、琵琶湖遊泳、川遊び、サイクリング等の自然体験の他、木工、手芸、作陶などのワークショップに参加し、日常生活では各人の学校の課題や当番制で掃除、洗濯、食事の準備・後片付けを行った。また、子どもたちが中心となって企画・運営する子ども夏祭りでは、全員が役割を持って取り組むことから達成感が得られ、自尊感情や責任感も育まれている。これらの取り組みを 7 年継続してきたことで、高校生ボランティアとして協力してくれる元キャンプ参加者が複数誕生している。

キャンプではできる限り無農薬、有機栽培、無添加の食材で食事を作るとともに、食事の大切さについて子どもたちに伝えており、「好き嫌いが減った」「ファーストフードを食べなくなった」と保護者から聞いている。

2012、13 年から継続して同じ施設を利用しているため、立地の自治会の皆さんにも見守りや送迎でご協力いただいたり、双方のイベントで交流したりする関係が築かれている。今夏は福島県浪江町と南相馬市から避難されている方を招いて防災のお話を自治会向けに行ったところ「自治会の防災に役立てたい」と、大変好評だった。